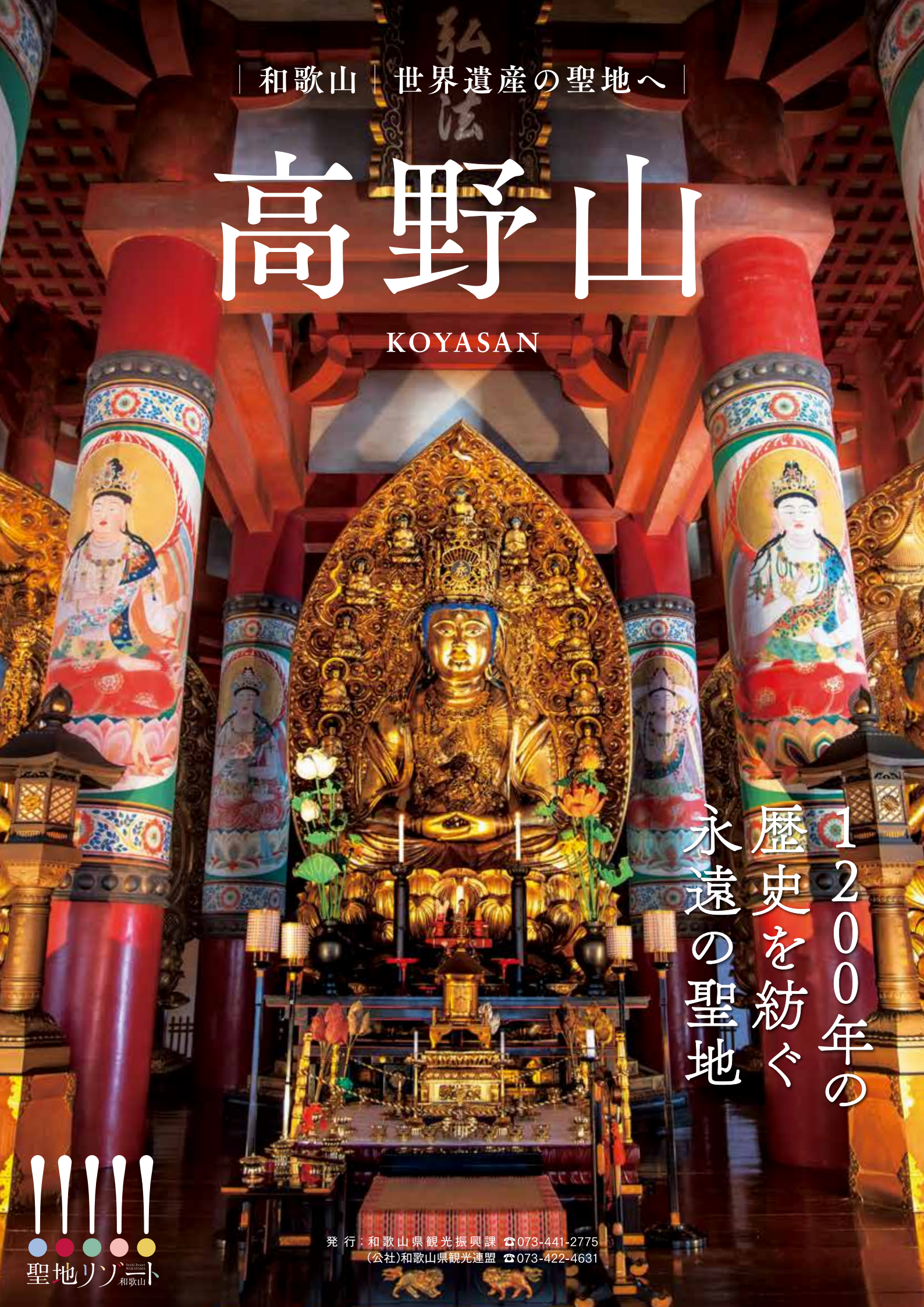


| 和歌山 | 世界遺産の聖地へ |

高野山

KOYASAN

1200年の歴史を紡ぐ永遠の聖地

聖地リゾート 和歌山

発 行：和歌山県観光振興課 ☎073-441-2775
（公社）和歌山県観光連盟 ☎073-422-4631

世界遺産の聖地へ

1200年の歴史を紡ぐ
永遠の聖地

高野山

弘法大師が開いた霊峰が人々の心のよりどころに

八葉の蓮華にもたとえられる8つの峰々に囲まれた盆地に、弘法大師空海が開いた真言密教の聖地。東西約6km、南北約3kmの中に、「両壇」と呼ばれる二大聖地「壇上伽藍」と「奥之院」をはじめ、金剛峯寺（写真）など117もの寺院が建ち並び、日本を代表する霊場が広がっています。都の喧噪から遠く離れ、雄大な自然に恵まれたこの地で、弘法大師は平和と人々の幸福を祈り、その想いは1200年の時を経た今も続いています。

※本誌に掲載されている情報は、令和7年６月現在の情報です。最新情報は、各施設等にご確認ください。

高野山を代表する
二大聖地

壇上伽藍
【だんじょうがらん】

弘法大師の教えが息づく
壮麗な修行の空間

奥之院と並び信仰の中心とされてきた聖地。開山後、最初に建立されたと伝わる御社や117ある寺院の総本堂である金堂をはじめ、高さ48.5mを誇り堂内に立体曼荼羅を擁する根本大塔（写真）、洗練された美しさを感じる西塔、さらに弘法大師の肖像が納められているという御影堂など19もの堂塔が建ち並ぶ壮大な空間が広がっています。また、天保14（1843）年に焼失した中門も開創1200年を記念し、172年ぶりに再建されました。

奥之院
【おくのいん】

静寂に包まれた参道の先に
弘法大師が今も祈り続ける

弘法大師信仰の中心となる聖地。最も奥に位置する御廟（ごびょう）では、弘法大師が今もなおそこに生き、世の中の平和と人々の幸福を願い瞑想を続けていると信じられており、毎日2回、弘法大師に食事を届ける「生身供（しょうじんぐ）」の儀式が行われています。御廟に続く約2kmの参道には、樹齢数百年の大杉が連なり、諸大名の供養塔をはじめとする20万基を超える墓碑が建ち並ぶ深遠な景観が広がります。

［山内をめぐる］

高野山 MAP

A. 金剛峯寺
【こんごうぶじ】

高野山真言宗の総本山。広い境内には、日本最大級の石庭・蟠龍庭（ばんりゅうてい）や狩野派の襖絵など見所が多数あります。

B. 徳川家霊台
【とくがわけれいだい】

寛永20（1643）年、徳川家康・秀忠親子の霊を祀るため、建立されました。建物の内部には金銀の蒔絵や極彩色の金具など、絢爛豪華な装飾が施されています。

C. 女人堂
【にょにんどう】

明治5（1872）年まで高野山は女人禁制であったため、高野七口（P13）の各入口では女性の籠もり堂として女人堂が建てられました。高野七口のうち、現存する唯一のお堂です。

御廟橋より先は聖域のため、写真撮影は禁止です。橋の手前で服装を正し、一礼をしてから渡りましょう。

一の橋から大師御廟までは約2km。織田信長や豊臣一族など、諸大名の墓碑や供養塔の数々が立ち並びます。

A 大岡越前守供養塔	B 武田信玄・勝頼供養塔	C 大師の腰掛け石	D 紀州徳川家供養塔
E 伊達政宗供養塔	F 上杉謙信・景勝霊屋	G 薩摩島津家供養塔	H 石田三成供養塔
I 明智光秀供養塔	J 汗かき地蔵	K 姿見の井戸	L 天樹院千姫供養塔
M 崇源院供養塔	N 化粧地蔵	O 加賀前田家供養塔	P 安芸浅野家供養塔
Q 浅野内匠頭赤穂四十七士供養塔		R 法然上人供養塔	S 越前松平家石廟
T 豊臣家墓所	U 織田信長供養塔	V みろく石	W 春日局供養塔

※現在、高野山駅前から大門経由でバスは運行しております。

G. 大門
【だいもん】

高野山の総門であり、山上結界のシンボル。高さ約26mの国内最大級の木造二重門で、鮮やかな朱塗りは壮観。現在の建物は1705年に再建されたもので、左右には金剛力士像が安置されています。

F. 高野山霊宝館
【こうやさんれいほうかん】

高野山内の貴重な文化遺産を保存展示する施設。国宝21件、重要文化財148件、県指定文化財17件を含む合わせて5万点を超える収蔵量を誇ります。年間を通じて企画展や特別展が行われています。

E. 金剛三昧院
【こんごうさんまいいん】

尼将軍・北条政子が、夫・源頼朝と息子、実朝の菩提を弔うため建立した寺院。国宝の多宝塔や樹齢500年以上の六本杉のほか、境内いっぱいに咲くシャクナゲの花も有名で、5月初旬が見頃です。

D. 苅萱堂
【かるかやどう】

能や浄瑠璃の演目としても広く知られる、苅萱道心と石童丸の悲話が伝わるお堂。堂内には、物語を描いた額が掲げられています。

宿坊に泊まる

高野山には、117の寺院があり、そのうち51ヶ寺は宿坊として一般の参拝者も宿泊することができます。美しい庭園や美術品、襖絵などを楽しめるのはもちろんですが、朝の勤行や写経、精進料理は宿坊ならではの体験です。

（写経）

（精進料理）

※宿坊により設備や体験等の内容が異なります。

宿坊に関するお問い合わせは高野山宿坊協会（☎0736-56-2616）まで。

つくも

良質なカツオで取っただしの良い香りが店内にふわりとただよいます。大門近くのこちらでは、山菜やきのこ、鶏肉など、地元の食材を使った釜飯が味わえます。ゴマ豆腐やみそ汁が付くセットがおすすめです。

☎0736-56-2212
伊都郡高野町高野山243
MAP→P6

中央食堂 さんぼう【ちゅうおうしょくどう さんぼう】

寺院への精進料理を代々提供してきた料理店。昆布、干しシイタケ、カンピョウ、大豆でだしを取り、天ぷらには和歌山の米油を使うなど、素朴な中にもこだわりが光ります。ゴマ豆腐や麦大豆ご飯、粟麩の田楽など、品数豊富な精進花籠弁当が人気です。

☎0736-56-2345
伊都郡高野町高野山722
MAP→P6

寺cafe成慶院
【てらかふぇせいけいいん】

武田信玄ゆかりの寺院で、静寂の中に佇む癒しのカフェ。地元の旬の果物をふんだんに取り入れたカフェメニューや、伝統の精進料理を楽しめます。四季ごとに変わる庭園の風景を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごすことができます。

☎0736-26-8437
伊都郡高野町
高野山 293
MAP→P6

☎0736-56-5030
伊都郡高野町高野山571
MAP→P5

光海珈琲
【こうみこーひー】

高野山で得度し、「光海」の僧名を持つ店主が営むカフェ。高野山の湧き水で淹れるコーヒーや、地元産のなた豆ほうじ茶のアイスクリームなど、地元の食材を使ったメニューがそろいます。

お土産

濱田屋のゴマ豆腐

創業100年以上のゴマ豆腐専門店。鮮度にこだわるゴマ豆腐は、すっきりとしたゴマの風味となめらかな食感が絶妙です。別売りの和三盆糖をかけてスイーツのようにいただくのもおすすめです。

☎0736-56-2343
伊都郡高野町高野山444
MAP→P6

大西寵志堂（おおにしちょうしどう）の宝来

表具師が高野紙に繊細な切り絵を施した、高野山名物の宝来が気軽なハガキサイズに。柄は干支や鶴亀など5種あり、小堀南岳堂や高野山大師堂でも購入できます。

☎0736-56-3695
（事前に連絡が望ましい）
伊都郡高野町高野山504-4
MAP→P5

コンフィチュールKOYA（コウヤ）のジャム

和歌山名産のフルーツをふんだんに使った無添加&手作りジャム。イチゴやマーマレード、キウイなど季節ごとに5～6種がそろいます。ガソリンスタンドの一角で販売されています。

☎0736-56-4367
伊都郡高野町高野山261
加勢田石油店内
MAP→P6

麸善（ふぜん）の 笹巻あんぷ

江戸時代から生麸を作り続ける老舗。こし餡入りのヨモギを混ぜた麸まんじゅうを、笹の葉で包んだ名物です。もちもちで弾力のある食感と、ほのかなヨモギの香りが魅力です。

☎0736-56-2537
伊都郡高野町高野山712
MAP→P6

金剛峯寺（こんごうぶじ）のお守り

干支ごとの守り本尊の形の十二支 守りと、お守り袋。写真のグリーンのチェック柄のほか数種あり、どれもかわいいデザインが特徴。真言宗のご本尊、大日如来は申歳と未歳の守り本尊です。

☎0736-56-2011
伊都郡高野町高野山132
MAP→P6

グルメ ／高野山ならではの精進料理や豆腐懐石を

梵恩舎【ぼんおんしゃ】

古民家を再生した木のぬくもりが伝わる店内で、野菜中心のヘルシーな食材を使ったランチが味わえるカフェ。豆腐のチーズケーキなど卵を使わないデザートも日替わりで楽しめます。店主夫妻はフランス語や英語、中国語など5ヶ国語を話せ、海外から訪れる方々をもてなすインターナショナルなカフェです。

☎0736-56-5535
伊都郡高野町
高野山 730
MAP→P6

花菱
【はなびし】

寺院の行事食である振舞料理の伝統を守る高野山料理の名店。皇室関係者や金剛峯寺の御用達を務めることで知られています。楊柳膳（ようりゅうぜん）など、お膳にのせて運ばれる本膳形式の精進懐石を1階のテーブル席や2階の座敷席などでゆったりと味わうことができます。

☎0736-56-2236
伊都郡高野町高野山 769
MAP→P6

角濱ごまとうふ総本舗 小田原店
【かどはまごまとうふそうほんぽ おだわらてん】

高野山のごまとうふ専門店が開いた食事処。出来立てのごまとうふを懐石料理として様々な味付けでいただけるほか、ごまとうふの原液を使った濃厚スープにグルテンフリー麺を使用した「精進NOODLE」や、生ごまとうふをデザート感覚で味わえるカフェメニューなど、ごまとうふを様々な形で楽しめます。

☎0736-26-8895
伊都郡高野町高野山 729
MAP→P6

高野町の観光に関するお問い合わせは高野町観光協会（☎0736-56-2468）まで。

聖地へと続く
祈りの道

高野参詣道
町石道
【ちょういしみち】

卒塔婆形の石柱が導く表参道

高野山への参拝者が巡った道のうち、主な7つの参詣道は高野七口（P.13）と呼ばれています。中でも大門から山麓へと続く「町石道」は、弘法大師が高野山開創の際に木製の卒塔婆を道標として建てたと伝わる表参道です。現在も根本大塔を起点として1町（丁）約109mごとに、慈尊院までは180基、奥之院の御廟までは36基の町石が建てられています。現存する町石の8割以上が鎌倉時代のものとされ、今も当時の面影を残す道が参詣者を導きます。

静寂と闇に包まれながら、
ありがたい教えを授かる

十箇条の戒めの教え「菩薩十善戒」を、阿闍梨（あじゃり＝高僧）から直接授かる儀式。暗闇の堂内で、法話を通してわかりやすく教えを伝えてくれます。年間を通じていつでも授戒に参加できるのは珍しく、最も高野山らしい体験の一つです。

高野山大師教会

☎0736-56-2015
伊都郡高野町高野山347
入壇料●1,000円
所要時間●約30分
※1日7回。実施10分前までに受付。
詳細はHPをご確認ください。
MAP→P6

無心に文字を綴り
心を静める

香で焚き清められた写教室で、作法に従い、姿勢を正して般若心経を書き綴る。一字一句に願いを込めて書くことで、雑念を払い、心が安らかになります。下地に写る文字をなぞる形なので初心者でも気軽に体験することができます。

高野山大師教会

☎0736-56-2015
伊都郡高野町高野山347
午前8時半～午後3時受付
（諸行事により受付できない場合があります）
料金●1,500円（写経奉納料を含む）
所要時間●約1時間
MAP→P6

日頃のモヤモヤを
呼吸と共に吐き出す

日本最大級の石庭、蟠龍庭に面して立つ、一般非公開の道場で行う阿字観（あじかん）は、真言宗における瞑想法の一つ。深くリラックスするために必要な姿勢や呼吸法を、丁寧に教授してくれます。

総本山金剛峯寺
阿字観道場

☎0736-56-2011
伊都郡高野町高野山132
※金剛峯寺内別殿販売所にて受付
参加費●1,000円（金剛峯寺拝観料1,000円別途要）
所要時間●約1時間
詳細はHPをご確認ください。
MAP→P6

修行体験

難しい教義を頭で知るのではなく、目で見て、体で感じられるのが高野山。今ではさまざまな人に開かれた教えの場として、金剛峯寺や高野山大師教会などで、修行体験ができます。山全体に神秘的な空気が立ち込める中では、より研ぎ澄まされた心で臨めます。

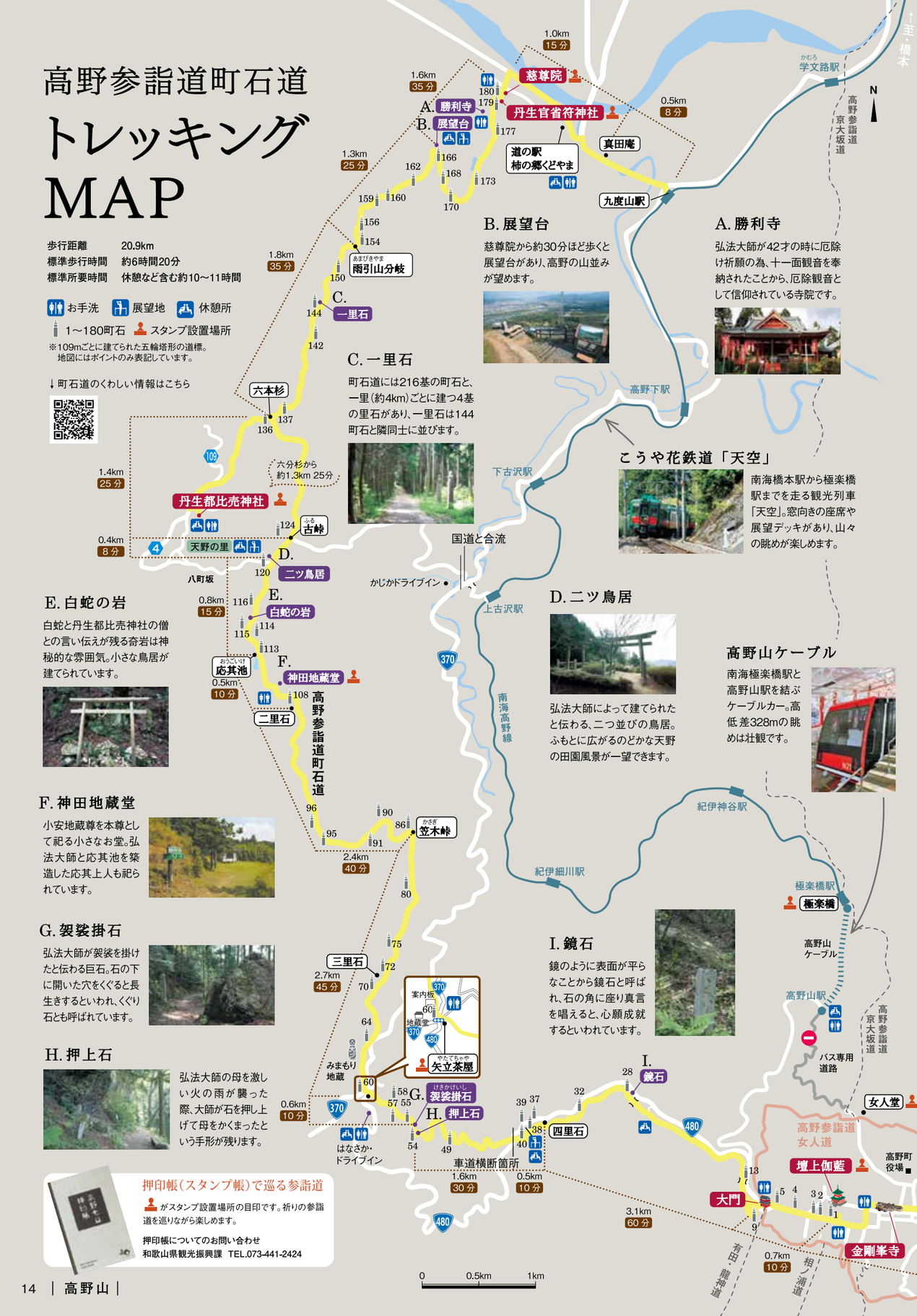
↓各体験の詳細はこちら
http://www.koyasan.or.jp/experience

高野参詣道町石道 トレッキング MAP

歩行距離　20.9km
標準歩行時間　約6時間20分
標準所要時間　休憩など含む約10〜11時間

お手洗　展望地　休憩所
1〜180町石　スタンプ設置場所
※109mごとに建てられた五輪塔形の道標。
地図にはポイントのみ表記しています。

↓町石道のくわしい情報はこちら



B. 展望台

慈尊院から約30分ほど歩くと展望台があり、高野の山並みが望めます。

A. 勝利寺

弘法大師が42才の時に厄除け祈願の為、十一面観音を奉納されたことから、厄除観音として信仰されている寺院です。

C. 一里石

町石道には216基の町石と、一里（約4km）ごとに建つ4基の里石があり、一里石は144町石と隣同士に並びます。

こうや花鉄道「天空」

南海橋本駅から極楽橋駅までを走る観光列車「天空」。窓向きの座席や展望デッキがあり、山々の眺めが楽しめます。

D. 二ツ鳥居

弘法大師によって建てられたと伝わる、二つ並びの鳥居。ふもとに広がるのどかな天野の田園風景が一望できます。

高野山ケーブル

南海極楽橋駅と高野山駅を結ぶケーブルカー。高低差328mの眺めは壮観です。

E. 白蛇の岩

白蛇と丹生都比売神社の僧との言い伝えが残る奇岩は神秘的な雰囲気。小さな鳥居が建てられています。

F. 神田地蔵堂

小安地蔵尊を本尊として祀る小さなお堂。弘法大師と応其池を築造した応其上人も祀られています。

G. 袈裟掛石

弘法大師が袈裟を掛けたと伝わる巨石。石の下に開いた穴をくぐると長生きするといわれ、くぐり石とも呼ばれています。

H. 押上石

弘法大師の母を激しい火の雨が襲った際、大師が石を押し上げて母をかくまったという手形が残ります。

I. 鏡石

鏡のように表面が平らなことから鏡石と呼ばれ、石の角に座り真言を唱えると、心願成就するといわれています。

押印帳（スタンプ帳）で巡る参詣道

がスタンプ設置場所の目印です。祈りの参詣道を巡りながら楽しめます。

押印帳についてのお問い合わせ
和歌山県観光振興課　TEL.073-441-2424

高野山を目指す参詣道 高野参詣道、高野七口

高野参詣道
■ 三谷坂

大銀杏がそびえる丹生酒殿神社を出発し、丹生都比売神社を経て、六本杉で町石道と合流する古道です。町石道よりも水はけがよく、近道であったことから平安中期以降、頻繁に利用されました。

■ 有田・龍神道

高野山大門より南へ下る道で、花園で西へ向かう有田道と南へ向かう龍神道に分かれます。龍神口の近くには、一つだけ願いを叶えてくれるという助の地蔵尊（お助け地蔵）などがあります。

■ 相ノ浦道

高野山を南へ下ったところに位置する相ノ浦と高野山中心部を繋ぐ、高野山の中で一番短い古道。

■ 熊野古道 小辺路

高野山と熊野本宮大社を結ぶ道で、高野参詣道と共に世界遺産に登録されています。距離にして約80kmの道中では、伯母子峠、三浦峠、果無峠と三つの大きな山越えがあります。

■ 大峰道

高野山と修験道の行場大峰山を結ぶ。古くから修験者がよく通ったことから、その装束にちなみ「すずかけの道」とも呼ばれています。弘法大師が最初に高野山に入った道ともいわれています。

高野参詣道
■ 黒河道

奈良方面から、橋本市の定福寺を起点に、高野山奥之院へ至る道。豊臣秀吉が高野参詣の帰途に通った道といわれています。

高野参詣道
■ 京大坂道

学文路から高野山の不動坂口女人堂までを繋ぐ道。ほとんど舗装された道になっていますが、河根の本陣や千石橋、神谷の集落に往時の風情が色濃く残っています。

遠く聖地を望む 女性たちの信仰の道

高野参詣道 女人道
【にょにんみち】

高野山内を取り囲むように尾根道をつなぐ女人道。女人禁制が解かれるまでは、高野七口の各入口には女性のための籠もり堂である女人堂が建てられていました。女性達は、女人堂から女人堂へと八葉の蓮華にたとえられる峰々をたどりながら、遠く御廟を拝んだといわれています。弁天岳から見下ろす根本大塔（写真）の景色や不動坂口の女人堂が当時を偲ばせてくれます。現在は、山内とは違った風景を見ることができるトレッキングコースとしても人気があります。

グルメ ／こだわりの地産食材を堪能する

こんにゃく工房 【こんにゃくこうぼう】

地産地消の食材を使ったメニューが自慢で、高野山麓のトマトを使ったトマトソースのオムライスで、ご飯にはこんにゃくが入っており、おすすめ。

☎0736-22-3433
伊都郡かつらぎ町星川 324
MAP→P16A-1

天野和み処 Cafe 客殿

【あまのなごみどころ かふぇ きゃくでん】

店主のご先祖は丹生都比売神社の社家で、宮司も務めた家系。その住まいだった築180年以上の古民家をカフェに。天野米お食事セットが人気で、絶品の天野米を使ったご飯は塩おむすび、白飯、卵かけご飯、茶粥から選べ、日替わりのメイン料理、季節の小鉢2種、具だくさんお味噌汁が付く大満足の内容です。

☎0736-26-0372
伊都郡かつらぎ町上天野140
MAP→P16B-1

お土産と授与品

こんにゃく工房 のトマトソース

地元農事組合法人が運営するカフェレストラン。売店には生芋手づくりこんにゃくやジャム、クッキーなど製造直売の品がずらり。高野山麓のトマトで作るバジル風味のトマトソースは、オムライスソースとして大人気です。

☎0736-22-3433
伊都郡かつらぎ町星川 324
MAP→P16A-1

天野の里物産販売所ようよって の 結めん

天野米など、地元産品を販売しています。結めんは和歌山県産のお米100%を使用した米粉めんで、茹でるとツルツルかつモチモチの食感になります。

☎0736-26-0360
伊都郡かつらぎ町上天野 786
MAP→P16B-1

丹生都比売神社 の 犬みくじ

愛らしい黒と白の犬をかたどった陶器製の犬。おなかにはおみくじが入っています。御祭神高野御子大神のお連れになっている2頭のご神犬が、高野山へ弘法大師を導いたといういわれに因んでいます。

MAP→P16B-1

丹生酒殿神社

【にうさかどのじんじゃ】

丹生都比売神社を経て高野山へ向かう参詣道である三谷坂の起点となる神社。神社の名は崇神天皇（または応神天皇）の時代に丹生都比売大神がこの地に降臨した時に、初めて神前に酒を供えたことに由来するといわれています。

☎0736-22-0300
（かつらぎ町観光協会）
伊都郡かつらぎ町三谷 631
境内参拝自由
MAP→P16A-1

丹生都比売神社

【にうつひめじんじゃ】

標高450メートルの天野盆地に、1700年以上前に創建されたと伝わる紀伊国一之宮。天照大御神の御妹神様で、稚日女命ともされる「丹生都比売大神」を祀る神社の総本社。本殿四殿は一間社春日造の社殿としては日本最大規模を誇り、楼門とともに重要文化財に指定されています。また、朱塗りの太鼓橋は淀君の寄進と伝えられているものです。弘法大師はこの神社の社地の一部を借り受け、高野山を開山しました。また毎月16日の月次祭（10月の例祭は除く）にはご神犬すずひめ号と大輝号が参拝後公開されています。高野山に参詣する際は、表参道である町石道の途中から一度この神社に立ち寄って先に参拝することが古くからの習わしでした。

☎0736-26-0102
伊都郡かつらぎ町
上天野230
境内参拝自由
（社務所は
午前8時45分～
午後4時半）
MAP→P16B-1

大輝号（左）すずひめ号（右）

グルメ　／歴史を感じる建物でお腹を満たす

おむすびスタンド「くど」

南海電鉄九度山駅構内にある、おむすび販売を中心とした売店で、イートインスペースも利用可能。九度山町産のコシヒカリと和歌山の食材で作る、和歌山ならではのおむすびを味わうことができます。色川の無農薬ほうじ茶や、有田100%みかんしぼり、南高うめスカッシュなどの飲み物も楽しめます。

☎0736-20-7553
伊都郡九度山町九度山123-2
南海電鉄九度山駅構内
MAP→P18A-2

体験　／伝統文化を体験する

紙遊苑
【しゆうえん】

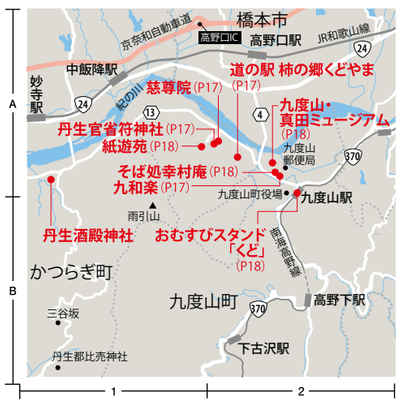
「高野紙（古沢紙）」の伝統文化とその技術を伝える体験資料館。古くは天皇や上皇が高野山参詣の宿泊所として利用した場所で、勝利寺の住職が住まわれていた建物には、凧や和紙づくりに関する様々な資料が展示されています。事前に予約をすれば紙漉きの体験もできます。（体験は要予約）

☎0736-54-3484
伊都郡九度山町慈尊院749-6
午前9時～午後4時半
月・火曜・年末年始休み
MAP→P18A-1

そば処幸村庵
【そばどころ ゆきむらあん】

真田昌幸、幸村が九度山で暮らした屋敷跡と伝わる真田庵に隣接する古民家がそば処に。真田家のふるさとである信州上田仕込みの本格的なそばを味わえるお店です。そばに柿の葉すしや天ぷらがセットになった幸村御膳が人気。

☎0736-54-3751
伊都郡九度山町九度山1404
MAP→P18A-2



高野山への玄関口・九度山は真田家ゆかりの町

高野山の政所である慈尊院や丹生官省符神社が置かれた九度山は、街道が通り、紀の川の水運にも恵まれた交通の要衝で、町石道をたどって高野山へ向かう参詣の人々が訪れた高野山への玄関口。戦国時代最後の武将として名を馳せた真田幸村（信繁）と父・昌幸、息子・大助が、高野山蟄居を命ぜられて14年間を過ごした町としても知られています。九度山・真田ミュージアムでは、真田父子の波乱に満ちた生涯を映像や展示で紹介しています。

九度山・真田ミュージアム
【くどやま・さなだみゅーじあむ】

☎0736-54-2727
伊都郡九度山町九度山1452-4
午前9時～午後5時（祝日の場合は営業・翌平日休館）
月・火曜休み
MAP→P18A-2

丹生官省符神社
【にうかんしょうぶじんじゃ】

弘仁7（816）年に弘法大師によって創建されたと伝えられる神社。主祭神として祀られているのは丹生都比売大神（丹生明神）と高野御子大神（狩場明神）で、狩場明神が猟師の姿になって現れ、従えていた白と黒の犬が弘法大師を高野山へ導いたと伝えられています。今も神々が町石道を歩く人々を見守るとされ、高野山へ歩いて向かう際にお参りをする習わしがあります。境内からは高野山の山並みを遥拝することができます。

☎0736-54-2754
伊都郡九度山町
慈尊院835
境内参拝自由
MAP→P18A-2

慈尊院
【じそんいん】

高野山が開かれる際、山麓の玄関口であるこの地に庶務を司る政所として、弘仁7（816）年に創建された寺院。息子の姿をひと目見たいと讃岐国から訪ねてきた弘法大師の母公が、当時は女人禁制のために高野山に上ることができず、亡くなるまで過ごしたと伝えられ、弘法大師はこの世を去った母君のために弥勒堂を建て弥勒菩薩を安置。女人高野として女性たちの信仰を集め、今も子授け、安産祈願などご利益がある寺院として知られています。

☎0736-54-2214
伊都郡九度山町慈尊院
832
午前8時～午後5時
MAP→P18A-2

お土産・授与品

道の駅 柿の郷くどやま の 柿パン

九度山の観光拠点で、世界遺産観光情報センターや地元産品が手に入る農産物直売所を併設。ベーカリーカフェ パーシモンでは、九度山名産の柿を使った柿パンや柿ペストリーなどが人気です。

☎0736-54-9967
伊都郡九度山町入郷5-5
MAP→P18A-2

九和楽 の 柿の葉すし

手作りの柿の葉すしを製造販売する専門店。定番のサバのほか、サケといしたけもありますが、できれば前日までに予約を。離れの座敷で釜めしとともに味わうこともできます。

☎0736-54-2600
伊都郡九度山町九度山1353
MAP→P18A-2

慈尊院 の お守り

「乳がん平癒御守」は、手作りの乳房型絵馬を奉納して子宝や安産、授乳などを祈願する習わしのある慈尊院ならではの御守。弥勒菩薩様に御祈願をしています。
MAP→P18A-2

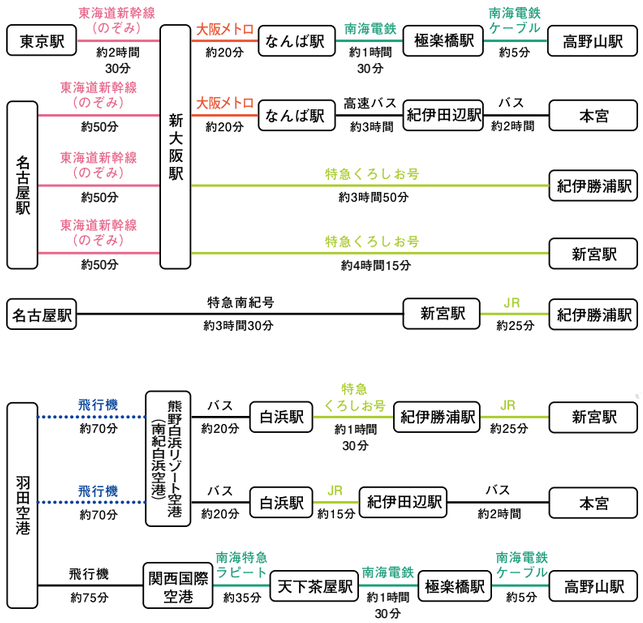
丹生官省符神社 の お守り

「導き犬御守」は弘法大師を高野山上へと導いた狩場明神の白と黒の犬にちなんだお守り。高野山と二匹の犬が木札に描かれています。
MAP→P18A-2

和歌山県 高野山 & 熊野アクセスガイド

WAKAYAMA ACCESS GUIDE

和歌山への主なアクセス



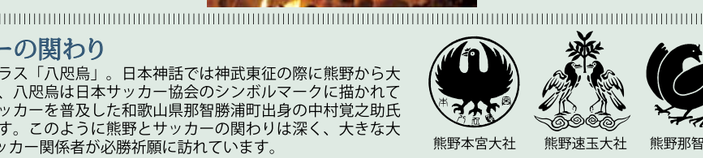
※令和7年6月現在の情報です。各路線における乗継パターンを参考に、所要時間の目安を掲載しています。
ご利用される日時によって、目的地までの所要時間が変わる場合がございますので、ご旅行の際は予め駅窓口にてお尋ねいただくか、JR時刻表でご確認ください。

バス路線図

県内のバス情報がGoogleマップ上で検索できます。

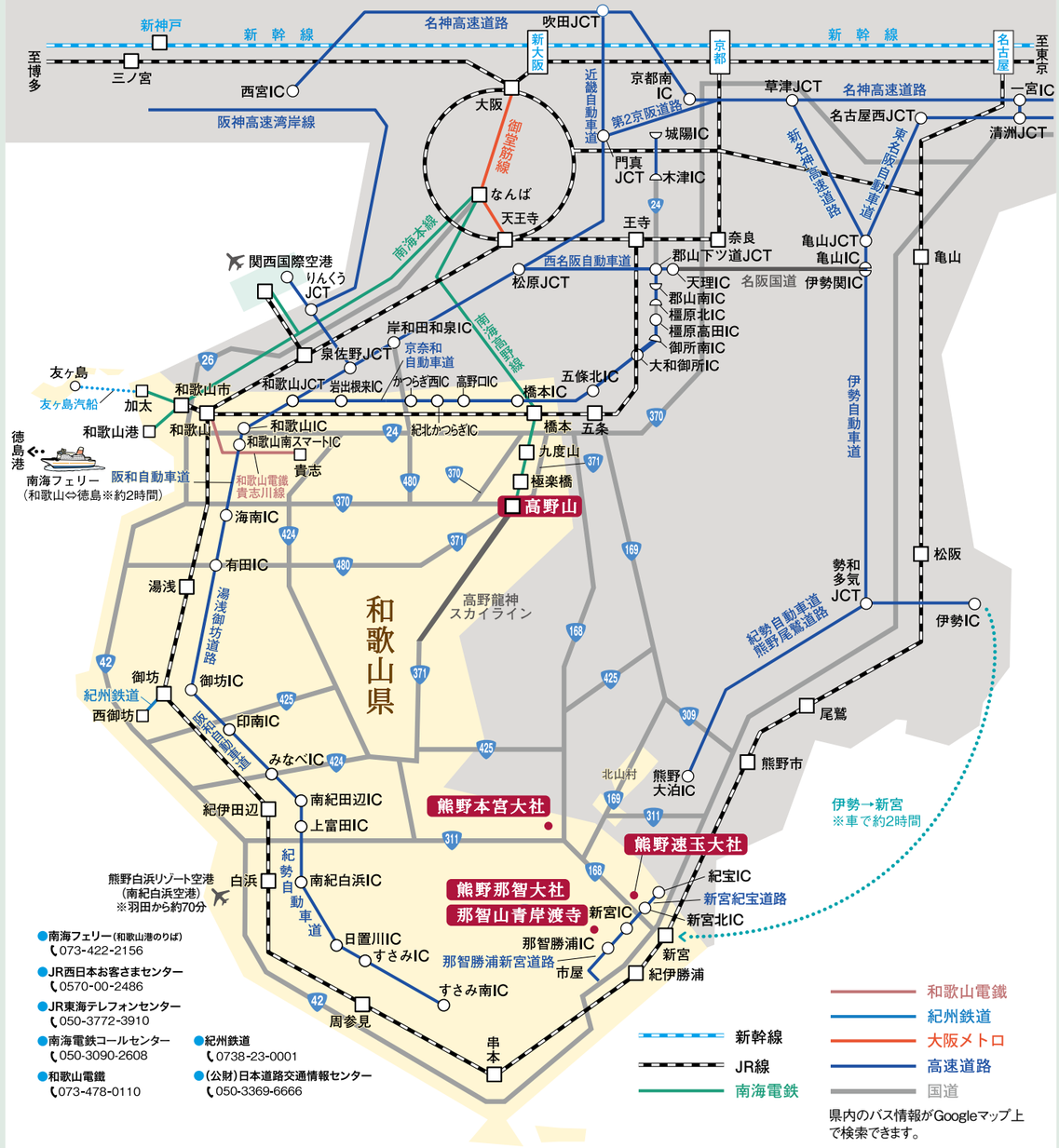
- 京阪高速バス ※1 ☎075-661-8200
- 龍神バス ☎0739-22-2100
- 明光バス ☎0739-33-7001
- 熊野御坊南海バス 新宮本社 ☎0735-22-5101
- 奈良交通 ☎0742-20-3100
- 三重交通 ☎0597-85-2196
- 北山村村営バス ☎0735-49-2331
- 聖地巡礼バス ※1（龍神バス、南海りんかんバス） ☎0739-22-2100、☎0736-56-2250

※1 期間限定運行。詳細については要問合せ。



（注）高野山・熊野へのアクセスに関するバス路線のみ記載しています。

鉄道路線図 & 高速道路



県内のバス情報がGoogleマップ上で検索できます。

和歌山県観光振興課
（公社）和歌山県観光連盟
〒640-8585 和歌山市小松原通1丁目1
TEL073-441-2775／073-422-4631
FAX073-432-8313

和歌山県東京観光センター
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2丁目10-1 東京交通会館地下1F
TEL03-3216-8000
FAX03-3216-8002

和歌山県名古屋観光センター
〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目1-1 中日ビル5F
TEL052-263-7273
FAX052-265-0327

和歌山県公式観光サイト
https://www.wakayama-kanko.or.jp/
和歌山県　観光　検索

高野山 & 熊野イベントガイド

EVENT GUIDE

那智の扇祭り

熊野那智大社／7月14日

熊野那智大社の例大祭。那智の大滝の参道にて、十二体の扇神輿を重さ50kg以上の大松明の火で迎え清める神事でも知られています。神輿出発に先立ち奉納される「那智の田楽」は、世界無形文化遺産に登録されています。

熊野本宮大社例大祭

熊野本宮大社
／4月13日～4月15日

熊野本宮大社の春祭。13日には、祭員が湯の峰温泉で身を清める「湯登神事」が行われます。15日の「渡御祭」では、神輿が大斎原へ渡御し、御田植神事や大和舞などが奉納され、例大祭のフィナーレを盛大に飾ります。

青葉まつり

金剛峯寺／6月15日

安永7(1778)年に書かれた「金剛峯寺年中行事」に初めてその名称があげられ、当時は金堂において行われていたと記されています。弘法大師の誕生日を祝う青葉まつりが、高野山一山をあげて開催されます。

御燈祭り（おとうまつり）

神倉神社／2月6日

神倉神社で行われる例大祭。白装束に荒縄を締めた「上り子（のぼりこ）」と呼ばれる男性が御神火を移した松明を持ち、神倉山の山頂から538段の石段を一気に駆け下りる勇壮な祭りです。

熊野のシンボル「八咫烏」とサッカーの関わり

熊野三山で神の使いとして祀られている三本足のカラス「八咫烏」。日本神話では神武東征の際に熊野から大和へ道案内し勝利へ導いたことで知られます。また、八咫烏は日本サッカー協会のシンボルマークに描かれているカラスとしても知られ、これは日本で初めてサッカーを普及した和歌山県那智勝浦町出身の中村覚之助氏に敬意を表してデザインされたものと言われています。このように熊野とサッカーの関わりは深く、大きな大会の前には、日本サッカー協会をはじめ、多くのサッカー関係者が必勝祈願に訪れています。

1300 年の歴史を誇る西国三十三所の第一番札所

那智山青岸渡寺

【なちさんせいがんとじ】

熊野那智大社に隣接する天台宗の寺院。1,000日(3年間)の滝篭りをした花山法皇が、永延2(988)年に御幸し、現在の那智山青岸渡寺を第一番として西国三十三所観音霊場を巡礼しました。明治の神仏分離までは、熊野那智大社と一体をなす、那智の大滝を中心にした神仏習合の一大修験道場であったことから、この地はまさに熊野信仰の心髄とも呼べる場所でした。現在の本堂は、天正18(1590)年に豊臣秀吉が再建したもので、国の重要文化財に指定されています。

☎0735-55-0401
東牟婁郡那智勝浦町
那智山8
午前7時～午後4時半
拝観料●三重の塔500円
(大人)、300円(小・中学生)
MAP→P21A-1

補陀洛山寺 【ふだらくさんじ】

南海の彼方にあると信じられていた観音浄土を生きながらにして目指す「補陀落渡海」の出発点だったことで知られる寺院。熊野三山の神々を祀る熊野三所大神社と隣接し、神仏習合の信仰形態を色濃く残しています。

☎0735-52-2523
東牟婁郡那智勝浦町
浜ノ宮348
午前8時半～午後4時
境内拝観自由
MAP→P21B-1

妙法山 阿弥陀寺

【みょうほうざん あみだじ】

熊野灘を一望できる妙法山の山頂にある弘法大師ゆかりの寺院。西方にあるという極楽浄土への入口としてお堂を建立し、阿弥陀如来を本尊としたことから、阿弥陀寺と名付けられました。人は亡くなると霊魂は必ず妙法山を詣で、一つ鐘をついて旅立っていくという「亡者の熊野詣で」の伝説があります。また、平安時代の熊野参詣者は、ここに自らの頭髪を納めて来世の極楽往生を願いました。

☎0735-55-0053
東牟婁郡那智勝浦町南平野2270
午前8時半～午後4時半
境内参拝自由
MAP→P21B-1

お土産と授与品

熊野那智大社の勝守

日本サッカー協会のマークとしても有名で、導きの力を持った熊野の神様の使いとして信仰を集める八咫烏をあしらったお守りです。
MAP→P21A-1

脇口水産の海の生ハム

地元の老舗水産業者が開発したカジキの生ハム。新鮮な生のクロカワカジキ、塩、昆布を材料に、独自技術でじっくり時間をかけて熟成。凝縮した旨みともっちりとした食感が楽しめます。

☎0735-52-2991
JR紀伊勝浦駅前の勝浦海産物センター、勝浦漁港にぎわい市場、ホテル浦島などで販売。

お菓子の工房 エストの生クリーム大福

地元牧場ミルクからこだわって作るケーキ、焼き菓子、アイスクリームはどれも優しい味で、厳選した材料を使っているのが良く分かる。店内にある「ちほ工房」の可愛い木工雑貨も要チェック。

☎0735-52-6868
東牟婁郡那智勝浦町
朝日3-1
MAP→P21B-2

温泉 ／海が目の前の絶景風呂

碧き島の宿 熊野別邸 中の島 【あおきしまのやど くまのべってい なかのしま】

勝浦港から専用船で約3分の小島に立つ温泉宿。源泉掛け流しの湯も心地良く、海に浮かんでいるような気分になれる露天風呂をはじめ、大浴場や客室から見渡せる景色は勝浦の海と島が織りなす絶景そのもの。旬の海鮮や熊野牛など郷土色を生かした料理も評判です。

☎0735-52-1111
東牟婁郡那智勝浦町勝浦1179-9
MAP→P21B-3

ホテル浦島 【ほてるうらしま】

小高い山になった岬がまるごと一大温泉施設に。広い館内には温泉が種類豊富にあり、その中でも天然洞窟内に温泉が湧く忘帰洞(写真)は圧巻です。ほかにも濃い泉質が評判の磯の湯など、個性豊かな湯めぐりが楽しめます。

☎0735-52-4111
東牟婁郡那智勝浦町勝浦1165-2
※日帰り入浴の利用可
MAP→P21B-3

グルメ ／日本有数の水揚げ量を誇る生マグロが自慢

bodai 【ぼだい】

勝浦港で揚がった鮮魚や、地場野菜を使う料理が自慢の居酒屋。マグロが目当てならお造りはもちろん、丼や定食もおすすめです。人気の鮪の中とろカツ定食は、高温・短時間でレアに揚げたマグロがなめらかな舌触り。おろしぽん酢でさっぱりといただけます。

☎0735-52-0039
東牟婁郡那智勝浦町築地5-1-3
MAP→P21B-2

桂城 【かつらぎ】

ときにはマグロの解体も見られる専門店。腹ワタや心臓など希少な部位もそろうのは、漁師との信頼関係がある店主だからこそ。写真のお造りや鉄板焼きなど5品のマグロ料理が楽しめるまぐろ定食は、昼夜共に注文できます。(マグロの種類は時期により変わります)

☎0735-52-1845
東牟婁郡那智勝浦町勝浦398-11
MAP→P21B-3

平安衣装をまとって古の熊野詣気分に！

茶屋で着付けをしてもらい、平安衣装姿で、大門坂(P36)や熊野那智大社、那智の大滝を巡る、非日常感たっぷりの体験ができます。夫婦杉までを歩く気軽なコースもあります。(詳細は要問合せ)

大門坂茶屋

☎0735-55-0244
東牟婁郡那智勝浦町那智山392-4
午前9時～午後3時最終受付
所要時間●1 ～ 3時間
催行人数●1人～(団体の場合は要予約)
体験料金●3,000円～
MAP→P21A-2

聖なる滝が鎮座する
熊野詣の最終地

那智

那智の大滝
（飛瀧神社）
【なちのおおたき（ひろうじんじゃ）】

生命の息吹みなぎる
落差133mの名瀑

熊野那智大社の別宮・飛瀧神社の御神体で、日本一の落差を誇る大滝。修験道の修行場であった那智四十八滝のうちの「一の滝」とも呼ばれています。社伝によると、神武天皇が熊野へ上陸された際、那智の山に光が輝くのを見て探り当てたといわれています。高さ133mの断崖を、天から降りてくるようにまっすぐ落ちる大滝からは、水しぶきや轟音とともに神々しい空気が放たれています。熊野信仰は、大いなる自然への畏敬の念が起源であり、生命の根源たる水の流れが絶えない「那智の大滝」は、まさにその象徴といえます。熊野詣の最後に那智にたどり着いた参詣者たちもまた、山間でこの大滝を目の当たりにした瞬間、圧倒的な自然のエネルギーに神の存在を重ねたはずです。

那智の大滝（飛瀧神社）

☎0735-55-0321
東牟婁郡那智勝浦町那智山
午前7時半～午後4時半
境内参拝自由（御滝拝所は午前8時半～午後4時、参入料300円）
MAP→P21A-1

熊野那智大社
【くまのなちたいしゃ】

那智の大滝を信仰の中心とした
自然信仰を象徴する神社

主祭神は、万物の生成・育成を司る熊野夫須美大神（くまのふすみのおおかみ＝イザナミノミコト）。熊野詣の最終目的地であり、那智山青岸渡寺と共に熊野信仰の中心地として栄華を極めました。仁徳天皇5（317）年に現在の位置に社殿を移したとされており、6棟からなる鮮やかな朱塗りの社殿と、背後で美しいコントラストをなす社叢が一体となった境内には、神聖な空気が漂います。本殿前の内庭には、神武天皇を大和に案内した八咫烏（やたがらす）が、大任を終えて石化したといわれる「烏石」が残されています。また、拝殿横には樹齢約850年の大楠が繁り、根元の空洞では無病息災を願って「胎内くぐり」をすることができます。

熊野那智大社

☎0735-55-0321
東牟婁郡那智勝浦町那智山1
午前7時半～午後4時半
境内参拝自由
MAP→P21A-1

阿須賀神社
【あすかじんじゃ】

熊野川河口近くの蓬莱山南側の麓に鎮座する神社。熊野の神々は最初に神倉山に降臨し、次に阿須賀の森に遷ったという伝説が残っています。古くから熊野の神々を祀り、平安時代から「阿須賀王子」とされてきました。熊野詣の人々が奉納した平安時代後期から室町時代の御正体である懸仏（かけぼとけ）約200面が社殿裏から出土するなど、熊野信仰の重要な王子社でした。

☎0735-22-3986
新宮市阿須賀1-2-25
境内参拝自由
MAP→P25A-2

レトロ建築をテーマに新宮の町を散策

新宮市旧チャップマン邸

文化学院の創始者で新宮市の名誉市民である建築家、西村伊作が設計。大正15（1926）年の築造で、アメリカ人宣教師チャップマンの旧居としても知られ、一般公開されています。

☎0735-23-2311
新宮市丹鶴 1-3-2
（旧西村家住宅の北東側道向い）
午前９時～午後５時
月曜休み（祝日の場合は翌日休み）
見学無料、貸館有料（要予約）
MAP→P25A-2

旧西村家住宅（西村伊作記念館）

上記旧チャップマン邸の設計者である西村伊作(1884～1963)の自邸。西村が設計し自ら地元の大工を指導して建てられた本住宅は、それまでの接客の場を重視する伝統的な住宅とは異なり、今日では一般的となった家族団らんのための居間が中心となった家族本位の思潮に基づいて計画された住宅の先駆例です。

☎0735-22-6570
新宮市丹鶴 1-2-14
MAP→P25A-2

ⓒ新宮市教育委員会

お土産と授与品

熊野速玉大社 の なぎまもり

樹齢約1,000年の御神木「ナギの木」の実で奉製した熊野速玉大社独自のお守り。家内安全・縁結び・海上安全のご利益があります。
MAP→P25A-1

エムアファブリー の アロマオイル・アロマウォーター

熊野杉から抽出した、100%天然のアロマオイル。木箱入りで、付属のクロモジの枝にオイルを垂らして香りを楽しみます。同じく熊野杉のアロマウォーターは、森林浴をするような清々しさです。

☎0735-22-0662
新宮市五新1-21
MAP→P25B-1

香梅堂 の 鈴焼

明治元年創業の老舗和菓子店。鈴焼は主に玉子、バター、和三盆などを配合したおだやかな甘さで、ふっくらもっちりの食感。つまみやすい一口サイズで食べだしたら止まらないおいしさです。

☎0735-22-3132
新宮市大橋通3-3-4
MAP→P25A-1

グルメ ／フレンチに寿司、イタリアンなどバラエティ豊か

徐福寿司
【じょふくずし】

郷土色豊かな巻き寿司が評判。塩漬けにした尾頭付きのさんま姿寿司は、ユズ酢が利いたすっきりした味わいです。ほかにも、自家製の高菜の古漬けを使う徐福熟成めはり寿司やマグロのだしで昆布やかんぴょうを炊いた、昆布寿司などがおすすめです。

☎0735-23-1313
新宮市徐福2-1-9
MAP→P25B-2

ILE DE FRANCE【イル・ド・フランス】

昭和58（1983）年に創業のフレンチレストラン。昼の名物は、神倉神社のゴトビキ岩（P27）に見立てたマッシュポテトをのせた熊野牛ハンバーグ。夜は、写真左下のオードブル（内容は一例）が付くコースなどが味わえます、事前に予約を。

☎0735-22-2365
新宮市新宮7697
MAP→P25A-2

仲氷店
【なかこおりてん】

県南部を流れる清流、古座川の水を72時間かけて製氷した、純氷のかき氷が看板です。写真上は、北山村産のじゃばら果汁と自家製蜜を合わせたシロップと、自家製餡を添えたジャバラ金時。写真下のレモンやイチゴのシロップで作るすいか氷も、その愛らしい形で人気です。

☎0735-21-5300
新宮市新宮551-12
MAP→P25A-1

カイハミカルネ

肉バルとして楽しめるディナーが地元で評判のイタリア料理店。気軽に味わえる肉料理が多彩に揃い、ワインやノンアルコールカクテルとともに楽しむことができます。大人気の店なので、できれば事前に予約を。

☎0735-23-0038
新宮市伊佐田町２丁目1-9
MAP→P25A-2

焼肉 ひげ
【やきにく　ひげ】

県内焼肉店で唯一の熊野牛指定店。創業から受け継ぐ秘伝のタレが熊野牛と絶妙にマッチし、お肉の本来の旨味を引き立てます。厳選ワインや本格焼酎、各種ウィスキーなど豊富な種類のドリンクも楽しめます。

☎0735-21-3488
新宮市神倉4-3-19
MAP→P25B-1

熊野の神々が
降臨した最初の地

新宮

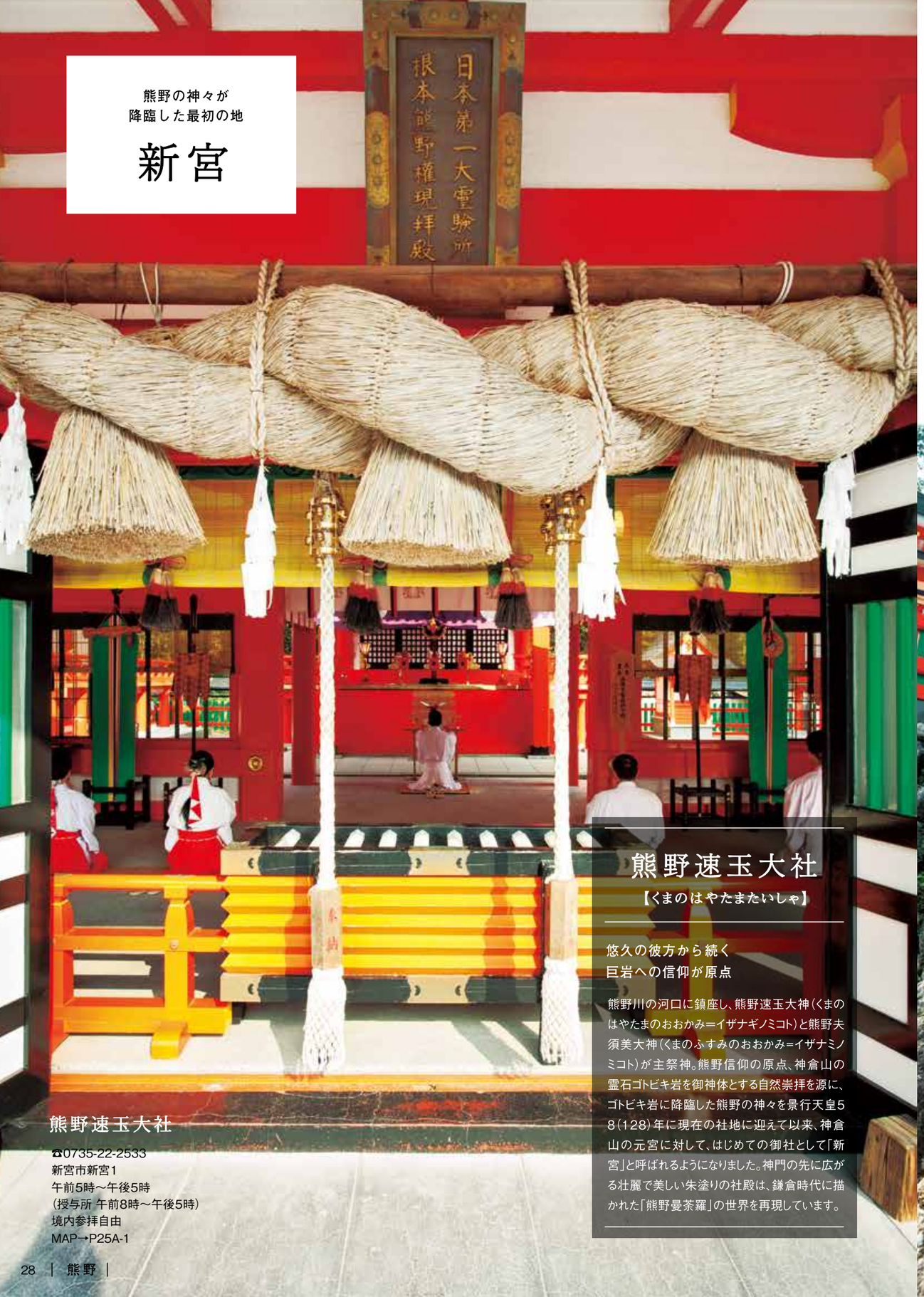
神倉神社

☎0735-22-2533（熊野速玉大社）
新宮市神倉1-13-8
境内参拝自由
MAP→P25B-1

神倉神社
【かみくらじんじゃ】

山上にそびえる
聖なる巨岩

神倉山の中腹にある熊野速玉大社の飛び地境内の摂社。熊野の神々が最初に降臨したといわれる御神体のゴトビキ岩は、古代の神話で神武天皇が登られた天磐盾（アマノイワタテ）であるといわれています。ゴトビキとは、熊野の方言でヒキガエルのことで、形が似ていることから名づけられたとされています。鎌倉時代に源頼朝が寄進したと伝えられる538段の急峻な石段を登り切った先で出合える巨岩ゴトビキ岩は、息をのむ存在感を放っています。



熊野速玉大社
【くまのはやたまたいしゃ】

悠久の彼方から続く
巨岩への信仰が原点

熊野川の河口に鎮座し、熊野速玉大神（くまのはやたまのおおかみ＝イザナギノミコト）と熊野夫須美大神（くまのふすみのおおかみ＝イザナミノミコト）が主祭神。熊野信仰の原点、神倉山の霊石ゴトビキ岩を御神体とする自然崇拝を源に、ゴトビキ岩に降臨した熊野の神々を景行天皇58（128）年に現在の社地に迎えて以来、神倉山の元宮に対して、はじめての御社として「新宮」と呼ばれるようになりました。神門の先に広がる壮麗で美しい朱塗りの社殿は、鎌倉時代に描かれた「熊野曼荼羅」の世界を再現しています。

熊野速玉大社

☎0735-22-2533
新宮市新宮1
午前5時～午後5時
（授与所 午前8時～午後5時）
境内参拝自由
MAP→P25A-1

大斎原 【おおゆのはら】

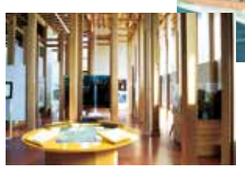
熊野本宮大社の旧社地。熊野川・音無川・岩田川の合流点の中洲には、かつては五棟十二社に能舞台まで立ち並ぶ壮麗な境内があったとされ、中世には庶民にまで広まった熊野詣は、まずこの大斎原を目指しました。入口には、当時の壮大な社地を偲ばせる高さ約34mの大鳥居がシンボルとしてそびえています。信仰の原点である森には、水害で流出した中四社と下四社の神々を祀る石祠があり、今もなお、古から続く人々の祈りが満ちているような雰囲気が漂います。

☎0735-42-0009
（熊野本宮大社）
田辺市本宮町本宮1
参拝自由
MAP→P29B-2

和歌山県世界遺産センター（世界遺産 熊野本宮館内）

【わかやまけんせかいいさんせんたー（せかいいさん くまのほんぐうかん）】

高野山、熊野、吉野・大峯の3エリアにまたがる世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の文化的背景などを学べる資料を展示しています。また、熊野本宮館では熊野信仰についての歴史も詳しく知ることができます。観光案内所を併設し、熊野の語り部も常駐しています。



☎0735-42-1044
田辺市本宮町本宮100-1
午前9時～午後5時
無休
MAP→P29A-2

お土産と授与品

茶房 珍重庵 本宮店 の 熊野もうで餅

新宮に本店を構える和菓子店が、熊野三山の門前でのみ販売する定番土産。自家製のこし餡を、ついた餅で包み、うるち米の玄米粉をまぶした素朴な風味です。

☎0735-42-1648
田辺市本宮町本宮195-3
熊野本宮大社 瑞鳳殿内
MAP→P29A-1

カフェアルマ の くまみつカステラ

日本ミツバチの蜂蜜をたっぷり使ったカステラをお土産に。店内やテラスで自家焙煎コーヒーと味わうこともできます。

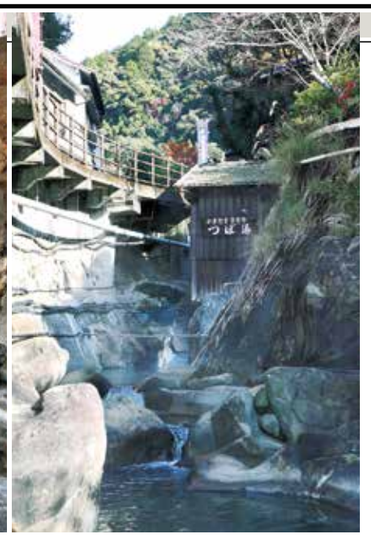
☎080-9508-1125
田辺市本宮町本宮195-3
熊野本宮大社瑞鳳殿内
MAP→P29A-1

熊野本宮大社 の 和のお守り

漫画家の荒木飛呂彦デザインのお守り。熊野古道と八咫烏、スペインのサンティアゴの巡礼路とホタテ貝が描かれ、世界の人々の「和合」への願いが込められています。

熊野本宮大社 授与所
☎0735-42-0009
田辺市本宮町本宮1110
MAP→P29A-1

温泉 ／山と川が織りなす名湯



川湯温泉 冨士屋

【かわゆおんせん ふじや】

高温の湯が湧き出る大塔川沿いにある川湯温泉の中でも、一番の老舗宿。野趣あふれる半露天風呂のほか、河原を掘って作られた河原露天風呂も楽しめます。付近には、12月～2月にかけて、川を堰き止めて作る巨大な混浴露天風呂「仙人風呂」も登場します。

☎0735-42-0007
田辺市本宮町川湯1452
MAP→P29B-3

"唯一入浴可能な世界遺産の温泉"

湯の峰温泉 つぼ湯

【ゆのみねおんせん つぼゆ】

熊野詣の際の湯垢離場（ゆごりば）として長い歴史を持ち、また「小栗判官伝説」でも知られる「つぼ湯」は世界で唯一、世界遺産に登録された入浴可能な温泉で、濃厚な硫黄泉である泉質にも定評があります。小さな岩風呂は、30分の交替制で、つぼ湯の近くには温泉を持ち帰れるくみとり湯や、90℃以上の源泉で温泉ゆで卵を作れる湯筒などもあります。

☎0735-42-0074
田辺市本宮町湯峯110 湯の峰温泉公衆浴場
午前6時～午後9時（午後8時半受付終了）
※予約不可※増水時入浴不可
不定休（清掃による休業日あり）
MAP→P29A-2

グルメ ／地元食材にこだわるランチや定食がそろいます

茶房 靖 【さぼう せい】

ガラス職人であるマスターが工房の隣で営むカフェは、客席から大斎原を望む絶好のロケーションも魅力です。しっかり炒めたタマネギの甘みと牛肉の旨みが重なる、熊野牛ドライカレー（サラダ付き）がいただけます。

☎0735-42-0147
田辺市本宮町本宮294
MAP→P29B-1

喫茶こぶち【きっさ こぶち】

目の前を流れる大塔川で釣り上げた魚を使った料理が自慢です。写真は塩焼きと甘露煮が各2尾ずつ付く、天然鮎定食。良質の苔を食べて育った天然のアユは、みずみずしい香りのワタまで美味です。

☎0735-42-0432
田辺市本宮町川湯1
MAP→P29B-3

山々に囲まれた
熊野詣最初の到達点

本宮

熊野本宮大社
【くまのほんぐうたいしゃ】

試練に耐えた旅人の
切なる想いを受けとめる

杉木立に囲まれた158段の石段参道を登り、総門をくぐると檜皮葺の威厳に満ちた社殿が姿をあらわします。主祭神は家津美御子大神（けつみみこのおおかみ＝スサノオノミコト）で、本地仏は阿弥陀如来とされていることから、極楽浄土の聖地とみなされてきました。かつては、「大斎原」と呼ばれる中洲に鎮座していましたが、明治22（1889）年の水害を受け、免れた上四社三棟を現在地に移築・再建されました。中辺路・小辺路、そして大峯奥駈道といった、いくつもの参詣道の交差点に鎮座する熊野本宮大社は、熊野詣の最初の目的地であり、ここから熊野川を下り、熊野速玉大社から熊野那智大社へと参詣するのが一般的だったといわれています。

熊野本宮大社

☎0735-42-0009
田辺市本宮町本宮1110
午前8時～午後5時
境内参拝自由　MAP→P29A-1

熊野古道 MAP

地域の人がすすめる
熊野古道の新たな魅力

古道の案内役である語り部などから聞き取った名景スポットを美しい写真とともに紹介するWEBサイトが登場。ひと味違う、古道歩きが楽しめるように。

ミツマタの群生（新宮市・大雲取越）

中辺路
【なかへち】

1.
八上王子（やがみおうじ）<上富田>
西行法師が歌を詠んだことでも知られ、境内には西行法師を偲んだ歌碑が建てられています。

2.
稲葉根王子（いなばねおうじ）<上富田>
「五躰王子」の一つ。かつての参詣者は、こちらの前を流れる富田川で身を清め、滝尻王子へ向かいました。

4.
長尾坂（ながおざか）<田辺>
入口付近には近世の石畳が良好に保たれており、その先は潮見峠越へと繋がります。

5.
潮見峠越（しおみとうげごえ）<田辺>
田辺湾を一望できる古道。安珍清姫伝説に由来する「捻木の杉」（天然記念物）が残ります。

3.
北郡越（ほくそぎごえ）<田辺>
鮎川王子から富田川沿いに滝尻王子に至る道。川沿いを歩く景観が気持ちよい道となっています。

6.
滝尻王子（たきじりおうじ）<田辺>
「五躰王子」に数えられており、後鳥羽上皇の一行もこの社前で御歌会を催されたと伝えられています。

7.
高原熊野神社（たかはらくまのじんじゃ）<田辺>
檜皮葺の建物は室町時代の様式で、熊野参詣道の中で現存する最古の神社といわれています。

8.
牛馬童子像（ぎゅうばどうじぞう）<田辺>
都を追われ、熊野詣に旅立った花山法皇の姿を模したと伝えられる石仏で、役行者像とともに祀られています。背後には鎌倉時代のものと伝わる宝篋印塔（ほうきょういんとう）が立っています。

9.
野中の清水（のなかのしみず）<田辺>
継桜王子のすぐ下にある湧き水。かつての巡礼者も、継桜王子からこちらまで降りて喉を潤したと伝えられます。

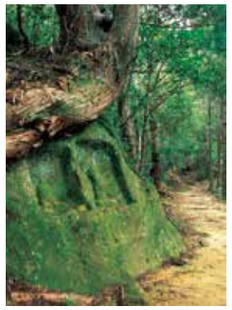
10.
継桜王子（つぎざくらおうじ）<田辺>
樹齢800年超とされる杉の巨木が並ぶ王子。近くには藤原秀衡の伝説にちなんだ美しい「秀衡桜」が立っています。

11.
赤木越（あかぎごえ）<田辺>
発心門王子に至る手前の船玉神社から湯の峰温泉を結ぶ山越えの道。標高差150mを一気に上ります。

14.
円座石（わろうだいし）<新宮>
阿弥陀仏・薬師仏・観音仏をさす梵字が彫られた、苔むした巨石。周囲は木々に囲まれ、神秘的な雰囲気です。

15.
かけぬけ道<那智勝浦>
女人高野といわれた妙法山阿弥陀寺（P22）へと向かう道。沿道には1町（丁）約109mごとに丁石があります。

16.
小狗子峠（こくじとうげ）<那智勝浦>
那智から新宮へと向かう峠で、みかん畑が並ぶのどかな風景です。途中には、狗子の浦を望むポイントもあります。


12.
大日越（だいにちごえ）<田辺>
湯の峰温泉から大日山を越え、熊野本宮大社へ向かう熊野古道です。

13.
百間ぐら（ひゃっけん）<田辺>
小雲取越の頂上付近にあり、遮るものがない絶景スポット。熊野の雄大な峰々を遥か彼方まで望めます。

17. 熊野川（くまのがわ）　川舟下り（かわぶねくだり）<新宮>
新宮市熊野川町から熊野速玉大社近くまでの熊野川、全長約16kmを舟で下ります。熊野川は「川の参詣道」として世界遺産にも登録されています。

紀伊路
【きいじ】

京都・大阪と熊野を結ぶかつて紀伊国の主要街道として栄えた道です。今も道中には由緒ある社寺や万葉集等の和歌に詠まれた景勝地などが点在しています。

小辺路
【こへち】

高野山から熊野本宮大社へ向かう紀伊半島の山岳地帯を縦断する参詣道です。

伊勢路
【いせじ】

竹林に囲まれた松本峠からは、熊野速玉大社がある新宮まで約25kmも続く七里御浜と、山並みが一望できます。

大峯奥駈道
【おおみねおくがけみち】

吉野と熊野を結ぶ道。急峻な山岳が連なる、極めて過酷な精神修行の道です。

大辺路【おおへち】

18.
闘雞神社（とうけいじんじゃ）<田辺>
創建1600年を超える当社は、弁慶の父とされる熊野別当湛増ゆかりの神社。勝負の神様としても信仰されています。

19.
富田坂（とんだざか）<白浜>
急な上り坂で、大辺路の最初の難所といわれています。白浜の街並みや美しい田辺湾を見下ろせます。

20.
安居の渡し（あごのわたし）<白浜>
富田坂を下った安居の集落から仏坂へ、日置川を渡る渡し船。大辺路で唯一、舟で渡る熊野古道です。

21.
仏坂（ほとけざか）<白浜、すさみ>
渡し船で日置川を渡り、安居の渡し場からすさみ町まで続く古道です。

22.
タオの峠（たおのとおげ）<すさみ>
「たわむ」をこの地の言葉では「たおる」ということから、「なだらかに湾曲した峠」を意味しています。

23.
新田平見道（にったひらみみち）<串本>
富山平見道と並んで、美しい姿を残す古道。幅広い石段と石畳が今でも残されています。

24.
富山平見道（とみやまひらみみち）<串本>
串本町田子の富山平見へ上がる古道。約200mにわたり大辺路で最も規模が大きい石畳が残っています。

25.
飛渡谷道（とびやたにみち）<串本>
苔むした石畳道は、照葉樹林に囲まれ、足下にはシダが生い茂ります。往年の熊野詣を感じさせる古道です。

26.
二河峠（にこうとうげ）<那智勝浦>
二河川に沿って峠を抜けると、古くから熊野詣の湯垢離場（ゆごりば）として栄えたゆりの山温泉があります。

27.
駿田峠（するだとうげ）<那智勝浦>
那智勝浦町中心部と湯川温泉を結ぶ古道。大きな掘割（斜面を切り取り低くしたもの）や加寿地蔵尊が残ります。

熊野古道を歩く

日帰りや1泊2日でのウォークから、1週間程度かけてじっくり歩くロングトレイルまで、熊野古道では登山経験や滞在日数に応じて多種多様な歩き方ができます。また、楽しみ方も様々で、かつての巡礼者が歩いた道を歩きながら、遥かなる歴史に思いをはせるのもよし、美しい花々や自然が育む景色を堪能するのもよし、語り部付きで歴史や文化を学びながら歩くのもお勧めです。

熊野古道の歩き方に関する詳細はこちら

熊野牛王符
【くまのごおうふ】

「熊野権現のお使いの鳥」（カラス文字）と「宝珠」を組み合わせた熊野三山の神札。一般的な災難除けの「護符」として用いられるほか、熊野の神々に誓いを立てる起請文（誓約書）として、金銭の貸し借りや武将の盟約、さらには愛の誓いといった、人々の暮らしの重要な局面で用いられました。

↑熊野本宮大社

↑熊野速玉大社

↑熊野那智大社

↑那智山青岸渡寺

聖地へと続く
巡礼の道

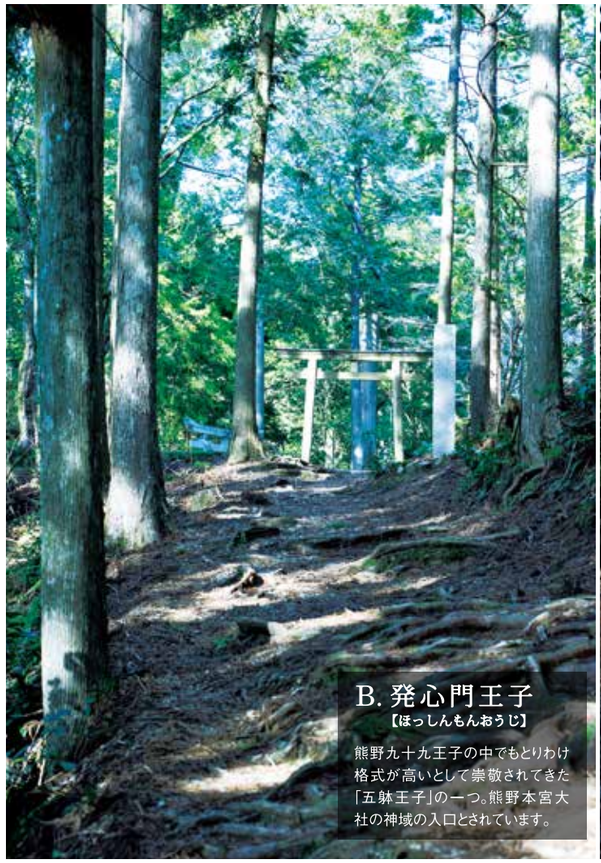
熊野古道

悠久の時を超え
今も旅人を優しく迎える

平安時代以降、熊野へと向かうため、都をはじめ、日本各地からさまざまな参詣の道が生まれました。中世に最も頻繁に利用され、熊野の御子神を祀った「王子」が点在する「中辺路」、海岸沿いを進み、太平洋を望むことができる「大辺路」、高野山から熊野を最短で結ぶ「小辺路」や伊勢神宮と熊野を結ぶ「伊勢路」など、これら熊野へと続く参詣の道が「熊野古道」です。険しい山道を越えて巡礼の旅を続けることで魂が救われると信じ、上皇や貴族のみならず、やがて庶民に至るまで、身分や男女の別を問わず、あらゆる人々が熊野を目指した様子は「蟻の熊野詣」と称されるほどでした。現在もこの参詣道を訪れる人々が絶えないのは、人知を超えた熊野の自然に畏敬の念を抱き、その場所を目指した当時の人々の想いが、日本人の心の奥深くに刻まれているからではないでしょうか。さまざまな想いをうけとめてきた祈りの道は、遙か千年の時を超え、今も熊野へと繋がっています。

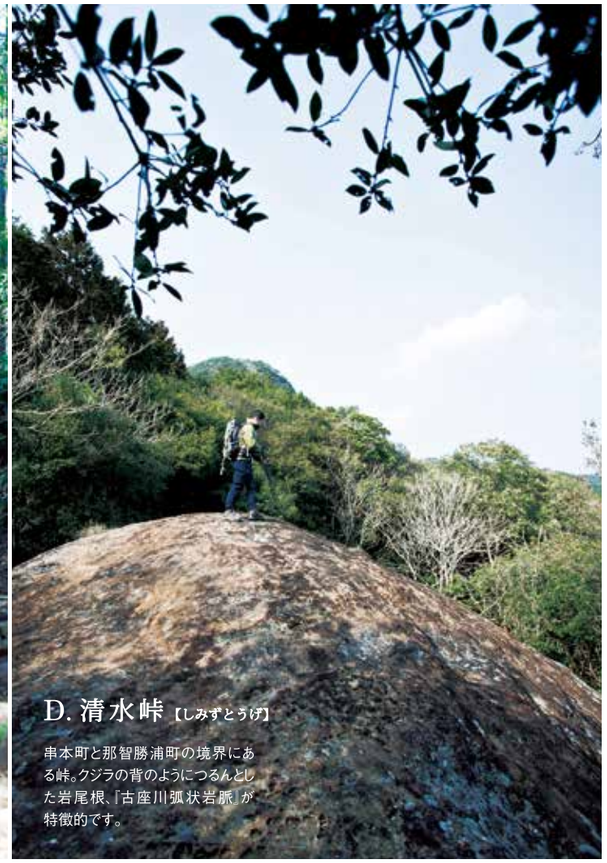
A. 大門坂 【だいもんざか】

石段が美しい参道。見事な杉の大木が立ち並ぶ坂の途中には、熊野九十九王子最後の「多富気王子」があり、巡礼の最終目的地が近づいている事を知らせてくれます。



B. 発心門王子 【ほっしんもんおうじ】

熊野九十九王子の中でもとりわけ格式が高いとして崇敬されてきた「五躰王子」の一つ。熊野本宮大社の神域の入口とされています。

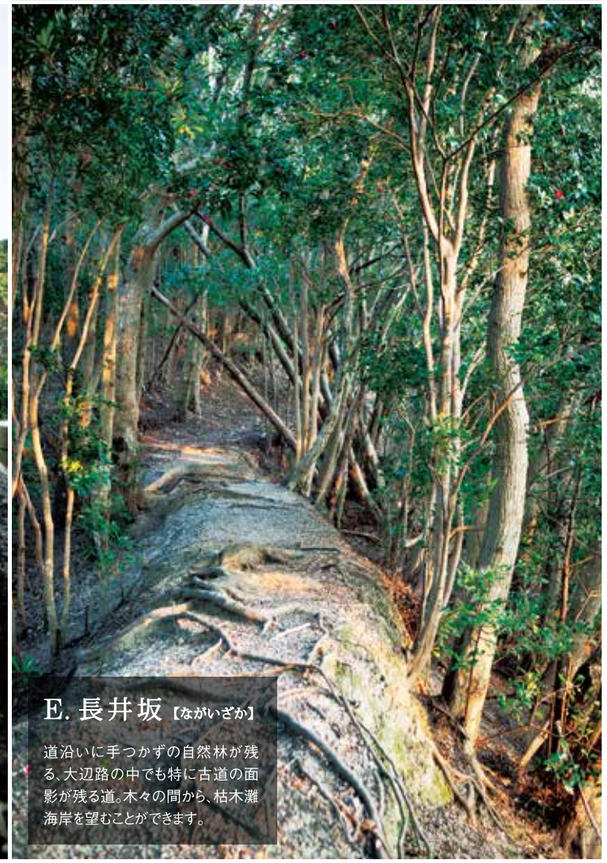


D. 清水峠 【しみずとうげ】

串本町と那智勝浦町の境界にある峠。クジラの背のようにつるんとした岩尾根、「古座川弧状岩脈」が特徴的です。

C. 高野坂 【こうやざか】

王子ヶ浜の南端にある御手洗（みたらい）海岸を眼下に、標高100mほどの丘陵地を歩く古道。中辺路で数少ない、海の見える道です。



E. 長井坂 【ながいざか】

道沿いに手つかずの自然林が残る、大辺路の中でも特に古道の面影が残る道。木々の間から、枯木灘海岸を望むことができます。

世界遺産の聖地へ

神々が棲まう
自然崇拝の聖地

熊野

今なお日本人を魅了する
あらゆる力が宿る場所

山々が重なり合い、深い森が広がる熊野。紀伊半島に降り注ぐ陽光や豊富な雨から生み出されてきた、ときに畏れを抱くほど神秘的な自然には、神が宿ると考えられてきました。山や川、岩や森への自然崇拝がこの地の信仰の原点で、本宮は樹木、新宮は巨岩、那智は大滝という人知を超えた自然を古くから祈りの対象としてきました。平安時代になると、浄土信仰の浸透や日本古来の神々と仏教を融合させた神仏習合の考えから、本宮では阿弥陀如来、新宮では薬師如来、那智では千手観音を「熊野権現」としてお祀りしました。そして、それぞれが互いに他の二社の主祭神を合祀し、現世と来世での救いを願う人々の崇敬を集めたことから、日本第一大霊験所とまで称される、日本で最も霊験あらたかな聖地とされました。この熊野を目指す巡礼の旅こそが、「日本人の旅の始まり」といわれ、人々の「心のよりどころ」となったのです。

発行：和歌山県観光振興課 ☎073-441-2775
(公社)和歌山県観光連盟 ☎073-422-4631